

令和四年 寅年

迎

春

年頭のご挨拶



上士幌町議会議長

杉山 幸昭



上士幌町長

竹中 貢

新年あけましておめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては、希望溢れる爽やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症による社会経済への打撃が続く、緊急事態宣言の長期化やさまざまな変異株が出現するなど、我慢と緊張を強いられる厳しい年でありました。また、開町90周年については、コロナ禍で記念行事は限られましたが、町の発展にご尽力を賜った多くの先人に敬意と感謝の念を捧げ、次の100周年に向けて全力を尽くすことを誓ったところであります。

一方、自粛と閉塞感が漂う中、12月2日に交通事故死ゼロが3000日の偉業を達成したことは、日ごろの町民の交通安全に対する意識の高さと安全行動によるものであり、町民の皆さまとともに喜びたいと思います。また、コロナ禍にあっても、本町の基幹産業の一つである農業が堅調であることをはじめ、林業や商工業、観光業など皆さまの果敢な取り組みに対しても衷心より敬意を表します。

町民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

令和4年の年頭にあたり、上士幌町議会を代表し謹んで新春のご挨拶を申し上げます。併せて、町議会への日頃のご理解とご協力に對しお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、一昨年からの新型コロナウイルス感染症の猛威が収まらず、北海道においては、5月初旬から9月末までのほとんどが緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の期間という、私たちの生活や経済活動にこれまでに経験の無い、制約を課された一年でありました。

現在の感染状況は、落ち着きを見せているところですが、新たなオミクロン株の発生など、第6波の襲来も予測されているところであり、3回目のワクチン接種や引き続きしっかりとした感染予防対策を講じることが重要となっております。

近年、世界各地で異常気象による大規模な自然災害が発生しています。異常気象の原因

本年は、「未来につなぐ笑顔かがやく元気まち上士幌」をまちづくりのテーマとした、第6期上士幌町総合計画がスタートする年であり、子や孫に明るい上士幌の未来を繋ぐために、将来を見据えたまちづくりを着実に推進していく必要があります。

また、畜産バイオマスを核としたクリーンエネルギーの地産地消や、ドローンなどの新技術、豊富な食料生産、人口増加などが評価され、内閣府の持続可能なまちとして「SDGs未来都市」に選定されました。地球温暖化に対しても国内外の動きに呼応し、2050年、二酸化炭素排出量実質ゼロを目指して、「上士幌町ゼロカーボン」を宣言したところであります。

こうした社会の変化にも的確に対応しつつ、すべての町民が安心・安全に暮らすことのできるまちを目指してまいりますので、皆さまの一層のご支援とご協力を賜りますとともに、町民の皆さま一人ひとりにとって素晴らしい年になりますよう、心からお祈りを申し上げます、新年のご挨拶と致します。

のひとつは、二酸化炭素など「温室効果ガス」の増加と言われ、「温室効果ガス」の排出削減や森林などによる吸収で、実質的な排出量をゼロにする「カーボンニュートラル」の2050年までに実現することを、日本をはじめ世界の国々が宣言しているところであります。

このような中、本町においては、「カーボンニュートラル」への対応や「SDGs（持続可能な開発目標）」との調和を盛り込んだ、今後10年間の新たなまちづくりの基本であり、第6期上士幌町総合計画の策定に向け、精力的に審議を進めているところであります。

令和4年度からの基本構想と基本計画であり、安心で安全な住みよいまちづくりに議会の役割を果たすべく、取り組んでまいります。

今後、皆さまの声が町政に反映されるよう、議会活動に精進する所存ですので、今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後となりましたが、町民の皆さまにとりまして健康で実り多い良い年になりますよう、ご祈念申し上げます、年頭のご挨拶と致します。